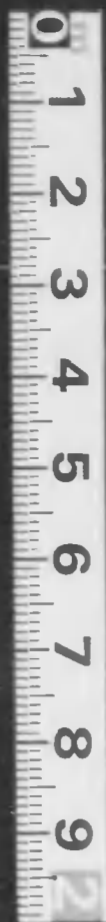


編輯局報情

ンセ十・號三十七百二第・日六廿月五

寫眞週報

昭和十七年五月廿六日 第百二十七號



われらも共に撃滅戦へ

海軍記念日





日本海に父が仰いだ乙旗を  
 けふの決戦太平洋に  
 仰ぐは強い父の血継いだ  
 その子君だ  
 その孫君だ  
 海の子君の生き甲斐は  
 濤と碎ける勲だ

海軍記念日に寄す



いざ決戦のとき来る

敵を一撃に撃滅するのが、海上における決戦である。日本海軍の決戦はまさに決戦の代表的なものであった。しかし、日本海軍から大東亞戦争に至る時間の隔りは、海上決戦の様相を全く新たなものとした

今日も決戦、明日も決戦、事實この決戦の總和が今日の戦争の勝負を左右する決戦なのである。開戦以来のハワイ、マレー沖海戦をはじめその後相次いで行はれた諸海戦は、各海戦のどの一つをとってみても、その規模において、その戦果において、一大海上決戦でないものはない。この間、敵米英海軍に與へた損害については、主力艦の撃沈十三隻、航空母艦十一隻、巡洋艦五十二隻、撃沈破砕数は四百隻以上といふ尤大な数に上り、これをバルチック艦隊の總トン數に比較すれば、實に數倍に上る。この外に航空機の撃墜破四千五百機以上がある。しかも戦争はまだこれからである

惨敗に次ぐ惨敗にも拘はらず敵米國は執拗にも反攻の機を窺つてゐる。北方のわがアリューシャン基地、南太平洋第一線基地への反復空襲は敵ながら文字通り死闘の一語に盡きる。而して、今日の戦争において航空兵力が主兵力的地位に上り、大なる機動力と攻撃力をもつて制海權に先んずる制空權を握るに至つたことは、新しい海戦の性格である。されば敵米國が開戦以來蒙つた海上兵力の甚大な損耗を、差し當り短時に大量生産できる航空兵力をもつて補はんとしてゐることは容易に想像し得る。生産目標十二万五千といふ飛行機、艦船の改造も加へた六十隻の空母建造といひ、この間の消息を物語つてゐる

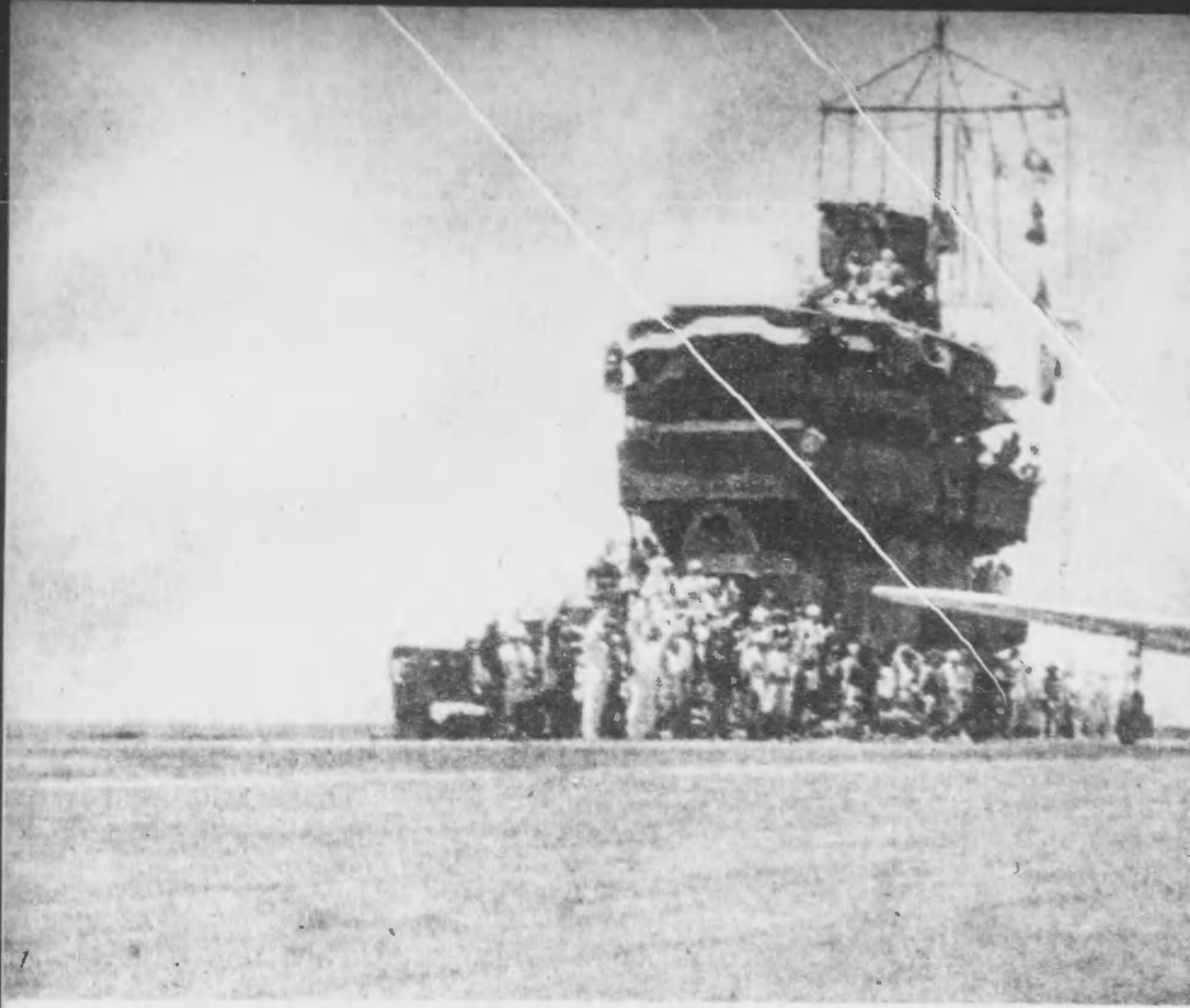
ルーズヴェルトのいふわが本土空襲、或ひは太平洋艦隊司令長官ニミッツの航空兵力による島から島への呼號など、今や敵がその誇る生産力を唯一の頼みに、建艦と飛行機増産に狂奔しつゝ、對日總反攻を企圖する時、われ一億同胞は皇國の興廢をかけた日露戦時を回想し、前線將兵の心を心とし、各職域においては、全力を傾倒して生産の決戦にも打ち勝たねばならない

全速力で敵艦隊の撃滅に向ふわが堂々たる水雷艦隊

「時の立札」は他へ轉載  
 その他に御利用下さい



# ばせ号呼を母空の百敵 んせ應て以を百二我



航空機の價値が増大したことよつて航空母艦の使命はいよゝ重要となつた  
空母はその巨艦に多數の各種飛行機を搭載し、大速力で洋上を行動する移動飛行場である。この移動飛行場は、艦隊戦に参加して敵主力に爆撃、雷撃を敢行、或ひは敵航空隊と雌雄を決し、或ひは長驅敵國沿岸に潜行して、敵の根據地や重要都市を空襲するなど、渡洋作戦にはなくてはならぬものである

1 「戦果を待つてぞ」敵呼の聲も、もうきこえない機は力強く發艦する  
2 ちすれ行く南海の夕日を浴びて、航空母艦から機は大空に舞け上がる  
3 潮風にブル、とふるひたつて、荒鷲は武者振ひする  
撮影 牧島海軍報道班員



# 空の戦場へ 馳せ参るよ

土浦海軍航空隊



空は僕達の世界だ。と、はつきり言ひ切れるのは少年。君達だけだ。

ハワイに、マライ沖に、西南太平洋に、世界を驚倒させた赫々の戦果の陰に幾多の武勳をうち立てた少年飛行兵出身の海鷲。その海鷲を見と呼び、その武勳を慕う君達だけが、空は僕達の世界だと、はつきりと言ひ切れるのだ。

必殺の気合をもつて敵機に躍りかゝつていつた兄背の闘志、一機一機を目ざして敵空母と刺しちかへる兄背の盡忠、それを継ぐのは、純真な少年諸君を指しては無いのだ。世界に冠絶する備材を自在に駆使する優秀な技術、これこそ若い君達の智力に期待するものだ。

大空にゆく門はひろく、極めて簡單だ。君達の決意一つで、海軍獨特の完備した教育施設が君達を迎へてくれるのだ。幾多の兄背が身をまもつて開いた突撃路を越えて、米本土攻撃の任務は君達の双翼にかゝつてゐる少年よ、来れ、そして選ばれた戦士とあれ。



「十七歳のオーストラリア」の飛行機に乗る少年。若くは若くは飛行機に乗る少年の姿は、大空のやまに明るく輝かしい。



知 だ熱心の飛行機 だ義勇の運動は日今。うよし強勉でもを意注の心細もに上の心。るあも軍先たしほなを障故へさに中級の闘。だそこばれたつきが訓練たしりかつし。



のついでが身かつか固になもあで。間のと。にうそさでも強健いしか弱になんこかに。るへがら見も弱弱げへい。うさ。だのたつ。たつたにう。



うのり酔い深たれはそさに練習いし。日一。ッモンハ。だ飛行機 だ空 も乗るれ。に。天で。れ。なと。飛。機。と。く。で。ま。の。を。け。れ。

## 海の若鷲となるには



甲種飛行科練習生

年齢 昭和十八年に志願できる者は、入隊の年の十二月一日に満十五歳以上二十歳未満の者です。から、大正十二年十二月三日から昭和三年十二月二日までに生れた者です。

募集は年二回行はれて

力さへあればよいので、學歷には制限はありません。第二次検査は第一次に合格した者の中から選抜して、領守府所定の海軍航空隊に集め、留泊して適性検査、口頭試験を行った上で、いよいよ最後の検査が行われます。

なほ一次、二次とも志願のための旅費、出陣、歸郷の旅費は市町村から徴兵旅費が支給されるのです。

乙種飛行科練習生

年齢 入隊の年の十二月一日を基準として、満十四年八月月以上二十歳未満の者です。昭和十八年入隊志願者は、大正十三年十二月三日から昭和五年四月一日までに生れた者です。

手続 志願の仕方は甲種に比べてとすつと簡單で、毎年八月月頃全国各府縣のどこかをめぐり、各町村役場や各郷、その地方の要所に「海軍志願兵募集」のまねいなポスターが貼られ、そこで募集が送られます。そして、募集は自分の住んでゐる市町村役場に行つて願書締切日を問ひ合せ、これに間に合ふやうに願書を出して下さい。

願書の締切日は九月頃から十二月頃まで、各府縣で異なります。志願書の書き方は一般の海軍志願兵と同じに書くのですが、この中の希望兵種といふ欄に、「第一希望、飛行兵（乙種飛行科練習生）」と書くのです。

もし進路がこれに合格出来なかつた

海軍航空隊の募集は、昭和十八年の六月頃から行なはれます。志願者は、募集の時期に各府縣の地方長官から、募集の案内が送られてきます。募集の案内には、募集の時期、募集の場所、募集の条件、募集の手続、募集の注意、募集の問い合わせ先などが詳しく記されています。募集の案内をよく読んで、募集の時期に各府縣の地方長官から、募集の案内が送られてきます。募集の案内をよく読んで、募集の時期に各府縣の地方長官から、募集の案内が送られてきます。

検査の時期と方法 第一次、第二次と二回検査がありますが、第一次検査では身體検査、學力試験、口頭試験が行はれ、學力試験は中學校三年修了程度を標準として、算術、英語、國漢文、物業、地理、歴史の科目を行ひますが、この學

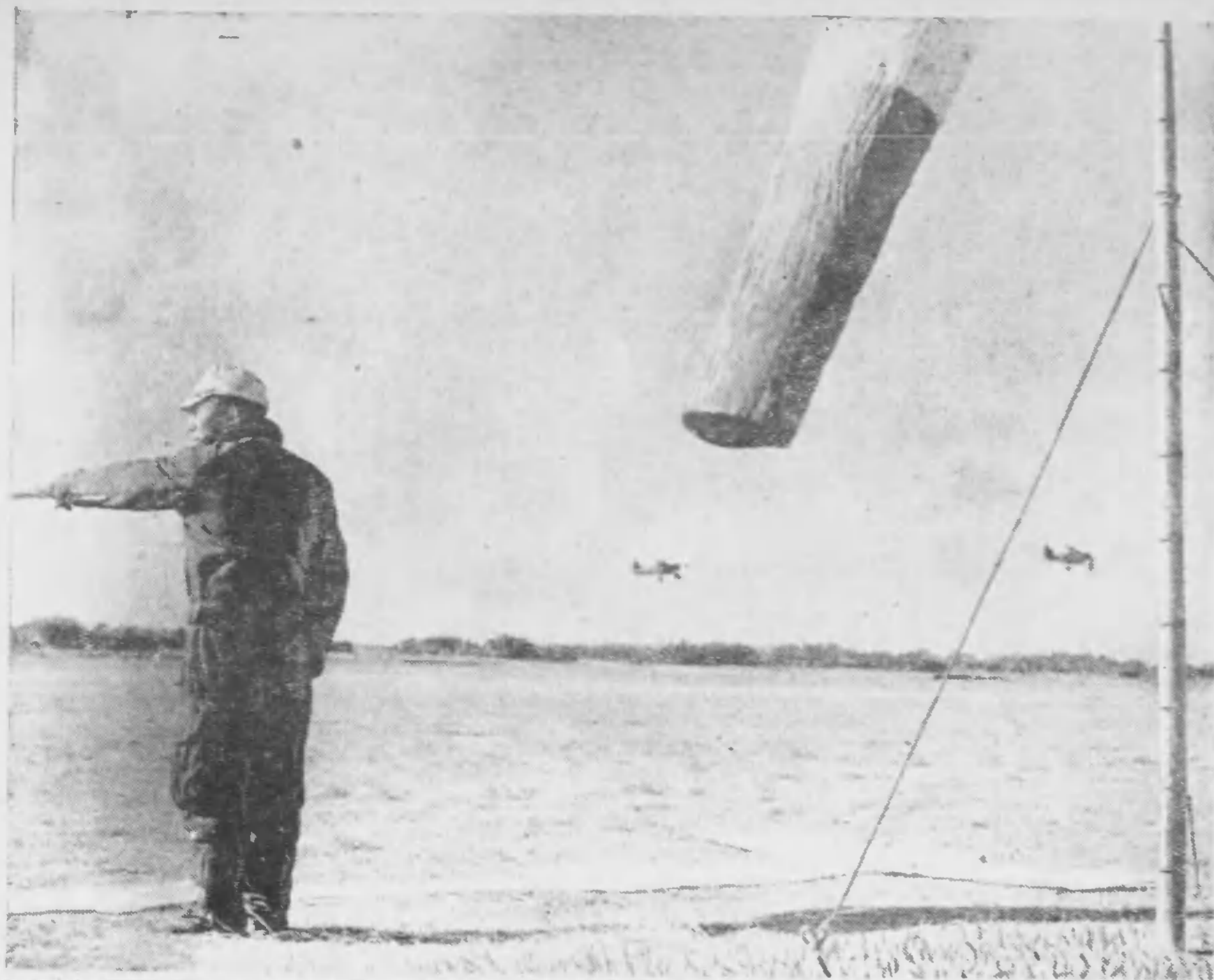
時のために第二希望として水兵（少年電信兵）等と書いてもよいのですが、今年不合格でも来年、再来年になつても随くまで飛行兵を希望する者は第二次希望を附かないでよいのです。

検査の時期と方法 第一次の検査は他の兵種の志願兵と同じで種類は學科、身體検査、口頭試験のほか、適性を適性検査が行はれます。が、學力試験は算術と漢書の二科目で國民學校高等科卒業程度です。適性検査は飛行機乗りとして大切な、素早く、しかも正しく物をみる能力とか、數學的な頭腦がよいかどうか等を試すので、いづれにせよ、飛行兵を志願する者は、この一次検査からあはれ、必ず合格する目標がなければなりません。

第二次検査は、飛行機乗りを志願し合格した者の中から選抜して各領守府所定の海軍航空隊に集め、留泊して適性検査、口頭試験を行った上で、いよいよ最後の検査が行われます。なほ一次、二次とも志願のための旅費、出陣、歸郷の旅費は市町村から徴兵旅費が支給されるのです。

以上を参考に願書を出して、募集の案内をよく読んで、募集の時期に各府縣の地方長官から、募集の案内が送られてきます。募集の案内をよく読んで、募集の時期に各府縣の地方長官から、募集の案内が送られてきます。





霞ヶ浦海軍航空隊

空の戦場へ馳せ参じよう



初飛行以来いくらにもならないのだが、離陸も旋回飛行もどろりかやれるやうになつた。單獨飛行を目ざして愛機は今、地を這つて飛びたつ

三機、五機、十機、橙色機雲の練習機は今日、大空へ！ 左上

直飛飛行もりまくなつた。手をとつて指導した生徒達の飛行ぶりを注視する教官の頬にも快心の微笑が浮かぶ

飛行作業の始めに、終りに、與へられる指導、講評、教官殿の言葉は簡潔だが、一言一句ゆるがせにできぬことばかりだ。しかも甚父のやうな温かな響きさへふくんでゐる。かうした指導こそ、自分達機にとつてこの上なき幸なのだ 左下



を終るころにはいつれも、身も心も習熟や技能等も、立派な海軍軍人として成長してゐるので

この期間中に甲種は入隊三月で上等飛行兵に、半年で飛行兵長といふやうに進級し、乙種も二年後には飛行兵長となります

さて、前期の飛行機科練習生の修業を終了すると、愈々特等飛行機練習生として、共に學び、共に鍛へた兄弟以上の同期生と別れ、操縦—霞ヶ浦、筑波、水上—廣島、備前—大井、鹿嶋といふやうに全国各地にある航空隊に入隊し、甲、乙種とも一年間艦主眼とする操縦術、偵察術等の技能、航空術に關する高等の學業を教授されるのです

さあ、これでいよいよ一人前の海の荒鷲が輝かしく誕生しました。行く手は何處もいふまでもありません、西南太平洋か、アリューシャンか、否、米本土への空の第一線です。雲をぬけて、大君の御指と放つた幾多先賢勇士の遺志の跡をつぎ、それをこえて世界の空をわが荒鷲の翼で蔽ふのです

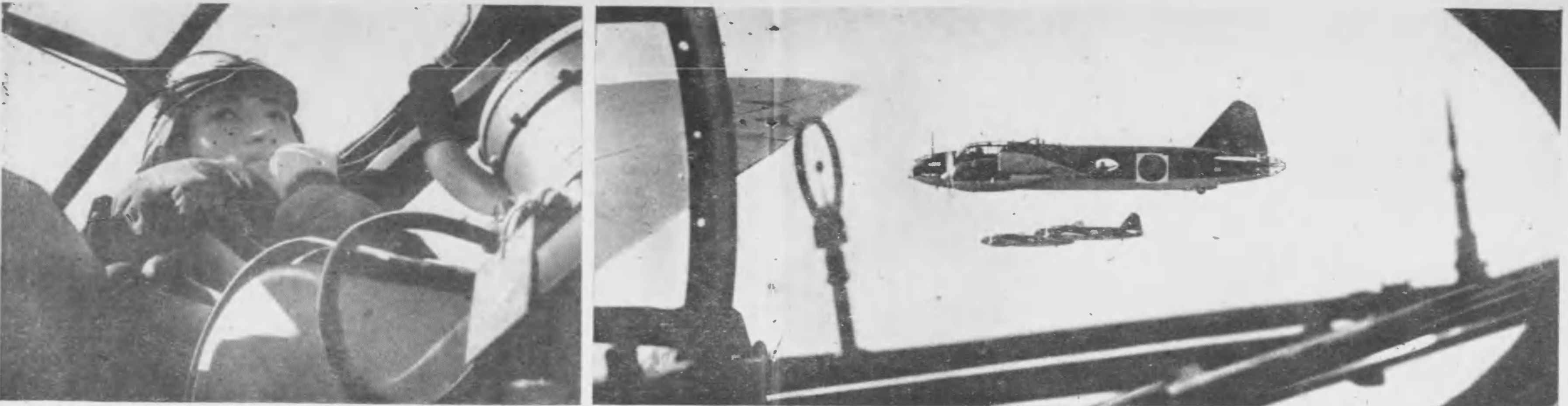
戦争の現段階は一人でも多くの海鷲を求めてゐます。若い純真な魂と頑健な肉體をもつた少年諸君、すべてを、大君のために捧げ、空へ雄飛して下さい。海鷲となるの道はこんなにも廣いのです

はじめて飛行服をかにつけた時の感傷。いつまでも脱がうとしないで、子供のやうに胸を隠らせてゐたのだ









何處へゆくのか分らない。自  
滅法に來て、その中に指揮官機  
がぐつと突入するか、自分も眞  
似をしてぐつと行つた風な  
やつです。ですから、捕まると  
命が惜しいと思つて、盛んに何  
でも出す。これは、かかるとい  
つて、また何んでも喋るん  
だが、最後にどくやら助かると  
分ると、何も喋らなくなる。唯  
イギリスとアメリカの遠きは少  
しはあります。それはイギリ  
ス人は傲慢だが、アメリカ人は  
軽い氣持でスポーツか何かや  
つてゐるといふ風です。

甲中佐 開戦後、速成で来たとい  
ふやつが多いやうです。  
記者 いさつは、どうしたので  
甲中佐 それは銃後にゐて、訓練  
に當つてゐるんです。一般  
飛行家の養成は、普通の學校の  
教育のやうに簡單に一人の先生  
で生徒の方は幾人になつてもい  
いといふのは違つて、一人に  
一人手をとつて教へなければ  
ならぬといふわけだから、一學  
にゆきしてゆくわけにはいかな  
い。生徒が信になれば、教官も  
倍必要になるわけだ。だから、  
いさつは銃後に養成に當つて  
ゐるんです。

記者 敵の様子はどうです  
乙少佐 相當本腰になつて來てゐ  
るやうです。敵は防禦に重點  
を置いてゐるので、格闘や敵  
はないから、速力のみ速くして  
いゝと思つてゐる。もうその時  
は馬が見えないところまでい  
つてゐたのですが、やがやく鳥  
を見つけて還りました。司令か  
ら、もう出ると怒られましたが、  
燃料が一杯々々のところまで  
出たので實に危ないところだ  
でした。

記者 敵が盛んに宣傳してゐる  
エーノコフ(ガート)・シカス  
キー)はどんな風ですか  
甲中佐 乙兵曹ですか  
乙兵曹 敵の毒丸には相當怖られ  
ますね。當らないんですが、毒  
丸の弾頭の構造がが、ま  
甲中佐 格闘戦はやらなかつたの  
か  
乙兵曹 やりませんでした  
甲中佐 これらが向ふと逃げてい  
つてしまふといふ風で、格闘に  
なればこつたもので。よ。で  
すから對等の勢いならば、見苦  
しい引掛け方はいけません。敵  
に戦勝意思があれば、その大  
部分をやつて逃げて來る

量ば馬鹿にならぬ  
甲中佐 とにかく、前線の苦勞を  
知つて貰ふことも大切な。大  
きく大空軍關係方面に人々で負  
ふことだ。それ、これは他の  
等々の部隊には、ま、ま  
る日の決断にま、ま  
づ、押を廻る。必殺のしよたま  
に、都合だ。

逃げることを考へてゐる  
甲中佐 どうしてもかういつた防  
禦物(毒子機)に力を入れば、  
これに相當重量がかかるから、  
何處かでその重量を落とすわけ  
だ。だから戦闘能力は落ちたの  
は當然だ。アメリカあたりは大  
量の物の流れを生産をやつてゐる  
が、人などもさうらしい。さう  
いつた點は、實は問題になり  
ないがアメリカの點といふ問題  
は相當馬鹿にならぬと思ふ

格闘になればこつちのもの  
丁大尉 いったい、敵の襲撃は面  
白いやうに定期的なやつて來  
る。必ず一晩置きとか、規則的  
にやつて來るんです。そこで  
これを徹底的に叩いてやる。さ  
うすると、それに應じてやつて  
來ない。だから、生漕い方法で  
はいけない  
丙大尉 要するに、徹底的にやつ  
つけないといけませんといわけ  
です

丁大尉 私もが最初、盛んに  
に襲撃を受けた一つの理由は、  
敵が日本軍の技術を知らなかつ  
たこともあつたわけですね。さ  
うして、その頃はやつつたか  
ら、徹底的にこつちが制空権を  
持つてゐて、隊形を組んで敵  
飛行場の上空を、分くらゐ飛  
んで歸つて來る。直に愉快な徹  
底的な襲撃を戦つた

乙少佐 概して敵は海軍の方が手  
強いですね。ボーイングはど  
う  
意見なんですか、外国では整備  
士官制度が完備してゐるやう  
だ。もう日本でも、この制度が  
完備されても、時機なんかや  
ないか。日本では、今まで餘り  
この制度が活用されてゐない  
のは残念に思ひますね  
記者 今まで、それでも幾らかあ  
つたので

甲中佐 これは、こゝにもその出  
身の人がありますが、豫備航空  
兵隊といふのが、大專高専生に  
よつて設置されてゐまして、幾  
らか整備士官がゐるわけなん  
ですが、もうそんな手遅い時代  
ぢやないんですか  
記者 どんな學校の方ですか  
甲中佐 あらゆる學校の人がゐま  
すよ。美術學校とか高等農林の  
やうな變つた學校の人や、文科  
系統の學校の人もゐますよ

記者 適性不適性といふことがあ  
るんです  
甲中佐 そんなことはありませ  
ん。普通身體の悪い者は別で、  
下手はありますが、大丈夫で  
す。飛行機の方は一ヶ月に千盞  
でも、千盞でも生産できます  
が、人の問題はさうはいきませ  
んから

少年航空兵は陸軍よりは早く  
實施したんですが、今はもう一  
期の中中は中尉になつてゐま  
す。假りに三年達成に年月がか  
かるとすれば、いま募集しても  
三年後でなければ使へないとい

だ  
甲兵曹 ( )方面でした。朝ま  
まつてやつて來るんです。こ  
つちが哨戒に上つてゐる間は來  
ないが、降りるとやつて來る。  
そこで、飛行機のははに待機し  
てゐた。( )分位で上りま  
すから、( )分位で上りま  
す。よると或る日ボーイングが  
一機やつて來た。高度は千メー  
トル位でした。そこで( )分くら  
ゐを追つたわけですが、( )機で  
ボーイング( )機にかつたので  
すが、よほど近寄つたと思つて  
も、( )メートルから( )メー  
トル位離れてゐるんです。實  
に大きいんですよ。そこで、大  
機をやる時には遙か向ふまで行  
つたと思つても直ぐ追つかれま  
すから、かなり先までいつて取  
つて返して丁度いい、相當にや  
つたので。敵も危ないと思  
つたので。ボーイングの機  
は下に下がつた。そこで、攻撃が  
やりにくくなつた。直ぐ海面で  
すから、下に入ることが出来な  
い。そこで機軸から射つたの  
ですが、悠々と飛んでゐる。船  
に降つたので、接近しては( )分  
位射つた。すると、さうさう下  
がつて海面( )メートル位まで  
下がつてしまつたので、なほ喰  
ひ下がつてゐると、別にどうと  
いふこともないのですが、その  
まゝ海面に突込んでしまつたわ  
けです。その時に感じたことは  
( )ミリの弾丸では餘り効果目  
がない、( )ミリの位のところは欲

ふわけですか、差當り必要な  
十八、十九、二十年に使へな  
い。それや困りますよ。私は  
よく例に出しますが、海軍で  
やるのは日本刀のときで、鍛錬  
の方は中學や専門學校邊りでや  
つて貰つて、地金の方は二千六  
百年の傳統がさうだ。それだか  
ら、鍛錬をしつかりやつて貰つ  
て、そのときを海軍でやる、と  
かういふことになるわけ  
敵アメリカでは、卒業と同時に  
に船など全部航空方面に探ると  
いつたことをやつてゐます。ま  
ま正直にいつてアメリカと對等  
に對抗できるものは、人的資源  
ぐらゐなものなんだから、日本  
はこの人的資源をうまく利用し  
てやつてゆかないといけません  
と思ふ。買ひ付くのは、買ひ付く  
馬鹿に出来ない問題です。だから  
要するに自轉車に乗れる者なら  
は飛行機に乗ることが出来ると  
いふのもよいです。特別に不器  
用で何をやつても出来ないとい  
ふものは別ですが、大部分の者  
は平氣で出来た。だから身體  
の丈夫な者は飛行家になつて皇  
國のために御奉公をする。國を  
まけて一臺でも餘計に飛行機を  
造つて敵米兵に當り、一人でも  
餘計に優秀な飛行士になつて敵  
米兵を屠る。この心構へ、この  
氣概を私は特に青少年に強く要  
望する次第です。五月十四日

甲中佐 ( )方面でしたが、朝ま  
まつてやつて來るんです。こ  
つちが哨戒に上つてゐる間は來  
ないが、降りるとやつて來る。  
そこで、飛行機のははに待機し  
てゐた。( )分位で上りま  
すから、( )分位で上りま  
す。よると或る日ボーイングが  
一機やつて來た。高度は千メー  
トル位でした。そこで( )分くら  
ゐを追つたわけですが、( )機で  
ボーイング( )機にかつたので  
すが、よほど近寄つたと思つて  
も、( )メートルから( )メー  
トル位離れてゐるんです。實  
に大きいんですよ。そこで、大  
機をやる時には遙か向ふまで行  
つたと思つても直ぐ追つかれま  
すから、かなり先までいつて取  
つて返して丁度いい、相當にや  
つたので。敵も危ないと思  
つたので。ボーイングの機  
は下に下がつた。そこで、攻撃が  
やりにくくなつた。直ぐ海面で  
すから、下に入ることが出来な  
い。そこで機軸から射つたの  
ですが、悠々と飛んでゐる。船  
に降つたので、接近しては( )分  
位射つた。すると、さうさう下  
がつて海面( )メートル位まで  
下がつてしまつたので、なほ喰  
ひ下がつてゐると、別にどうと  
いふこともないのですが、その  
まゝ海面に突込んでしまつたわ  
けです。その時に感じたことは  
( )ミリの弾丸では餘り効果目  
がない、( )ミリの位のところは欲

甲中佐 ( )方面でしたが、朝ま  
まつてやつて來るんです。こ  
つちが哨戒に上つてゐる間は來  
ないが、降りるとやつて來る。  
そこで、飛行機のははに待機し  
てゐた。( )分位で上りま  
すから、( )分位で上りま  
す。よると或る日ボーイングが  
一機やつて來た。高度は千メー  
トル位でした。そこで( )分くら  
ゐを追つたわけですが、( )機で  
ボーイング( )機にかつたので  
すが、よほど近寄つたと思つて  
も、( )メートルから( )メー  
トル位離れてゐるんです。實  
に大きいんですよ。そこで、大  
機をやる時には遙か向ふまで行  
つたと思つても直ぐ追つかれま  
すから、かなり先までいつて取  
つて返して丁度いい、相當にや  
つたので。敵も危ないと思  
つたので。ボーイングの機  
は下に下がつた。そこで、攻撃が  
やりにくくなつた。直ぐ海面で  
すから、下に入ることが出来な  
い。そこで機軸から射つたの  
ですが、悠々と飛んでゐる。船  
に降つたので、接近しては( )分  
位射つた。すると、さうさう下  
がつて海面( )メートル位まで  
下がつてしまつたので、なほ喰  
ひ下がつてゐると、別にどうと  
いふこともないのですが、その  
まゝ海面に突込んでしまつたわ  
けです。その時に感じたことは  
( )ミリの弾丸では餘り効果目  
がない、( )ミリの位のところは欲

甲中佐 ( )方面でしたが、朝ま  
まつてやつて來るんです。こ  
つちが哨戒に上つてゐる間は來  
ないが、降りるとやつて來る。  
そこで、飛行機のははに待機し  
てゐた。( )分位で上りま  
すから、( )分位で上りま  
す。よると或る日ボーイングが  
一機やつて來た。高度は千メー  
トル位でした。そこで( )分くら  
ゐを追つたわけですが、( )機で  
ボーイング( )機にかつたので  
すが、よほど近寄つたと思つて  
も、( )メートルから( )メー  
トル位離れてゐるんです。實  
に大きいんですよ。そこで、大  
機をやる時には遙か向ふまで行  
つたと思つても直ぐ追つかれま  
すから、かなり先までいつて取  
つて返して丁度いい、相當にや  
つたので。敵も危ないと思  
つたので。ボーイングの機  
は下に下がつた。そこで、攻撃が  
やりにくくなつた。直ぐ海面で  
すから、下に入ることが出来な  
い。そこで機軸から射つたの  
ですが、悠々と飛んでゐる。船  
に降つたので、接近しては( )分  
位射つた。すると、さうさう下  
がつて海面( )メートル位まで  
下がつてしまつたので、なほ喰  
ひ下がつてゐると、別にどうと  
いふこともないのですが、その  
まゝ海面に突込んでしまつたわ  
けです。その時に感じたことは  
( )ミリの弾丸では餘り効果目  
がない、( )ミリの位のところは欲

甲中佐 ( )方面でしたが、朝ま  
まつてやつて來るんです。こ  
つちが哨戒に上つてゐる間は來  
ないが、降りるとやつて來る。  
そこで、飛行機のははに待機し  
てゐた。( )分位で上りま  
すから、( )分位で上りま  
す。よると或る日ボーイングが  
一機やつて來た。高度は千メー  
トル位でした。そこで( )分くら  
ゐを追つたわけですが、( )機で  
ボーイング( )機にかつたので  
すが、よほど近寄つたと思つて  
も、( )メートルから( )メー  
トル位離れてゐるんです。實  
に大きいんですよ。そこで、大  
機をやる時には遙か向ふまで行  
つたと思つても直ぐ追つかれま  
すから、かなり先までいつて取  
つて返して丁度いい、相當にや  
つたので。敵も危ないと思  
つたので。ボーイングの機  
は下に下がつた。そこで、攻撃が  
やりにくくなつた。直ぐ海面で  
すから、下に入ることが出来な  
い。そこで機軸から射つたの  
ですが、悠々と飛んでゐる。船  
に降つたので、接近しては( )分  
位射つた。すると、さうさう下  
がつて海面( )メートル位まで  
下がつてしまつたので、なほ喰  
ひ下がつてゐると、別にどうと  
いふこともないのですが、その  
まゝ海面に突込んでしまつたわ  
けです。その時に感じたことは  
( )ミリの弾丸では餘り効果目  
がない、( )ミリの位のところは欲

甲中佐 ( )方面でしたが、朝ま  
まつてやつて來るんです。こ  
つちが哨戒に上つてゐる間は來  
ないが、降りるとやつて來る。  
そこで、飛行機のははに待機し  
てゐた。( )分位で上りま  
すから、( )分位で上りま  
す。よると或る日ボーイングが  
一機やつて來た。高度は千メー  
トル位でした。そこで( )分くら  
ゐを追つたわけですが、( )機で  
ボーイング( )機にかつたので  
すが、よほど近寄つたと思つて  
も、( )メートルから( )メー  
トル位離れてゐるんです。實  
に大きいんですよ。そこで、大  
機をやる時には遙か向ふまで行  
つたと思つても直ぐ追つかれま  
すから、かなり先までいつて取  
つて返して丁度いい、相當にや  
つたので。敵も危ないと思  
つたので。ボーイングの機  
は下に下がつた。そこで、攻撃が  
やりにくくなつた。直ぐ海面で  
すから、下に入ることが出来な  
い。そこで機軸から射つたの  
ですが、悠々と飛んでゐる。船  
に降つたので、接近しては( )分  
位射つた。すると、さうさう下  
がつて海面( )メートル位まで  
下がつてしまつたので、なほ喰  
ひ下がつてゐると、別にどうと  
いふこともないのですが、その  
まゝ海面に突込んでしまつたわ  
けです。その時に感じたことは  
( )ミリの弾丸では餘り効果目  
がない、( )ミリの位のところは欲





空母三隻、大巡二隻の周りを更に駆逐艦九隻で固め我が基地を命はんとする敵米空母の輪陣を昨十七年二月二十日、ソロモン群島東方に物の見事に叩きつけたあの戦果の背後には、最大進出距離を遙かに超え、しかも敵戦艦の妨害とスロウとの困難な状況の中から、正確適切な報告を行き、遂には燃料不足のため歸還せず、哨戒隊の重責を果たして南海に散った松江、坂井兩機を生還を賜さない必死の武勳があった。

また、同じ十七年一月十八日夕、オホ湾口で、トビはきの水上機が敵双発機六機と激しい合戦、一機を撃墜したが、機長、操縦員は戦死し、重臣の電信兵が自ら操縦桿を握って墜落を救ったばかりか、救助にきた艦に、頭置した機のプロトの上から、血潮したる手旗信號で報告を送った忠勇があった。

陸軍部隊の進出の際に、米軍南洋艦隊を侵襲し、巡洋艦二隻、駆逐艦五隻、潜水艦十隻を撃沈したヌラバ方面護衛部隊や船団泊地進入後、奇襲せんとした米海軍潜水艦二隻を撃滅したバタビヤ方面護衛部隊の労苦があった。

輝かしい戦果の背後には、必ず人知れぬ苦勞と努力がひそんでゐる。索敵に、對潜警戒に、日夜を分たぬ哨戒部隊、敵機の機銃掃射下に明らかもなく、マラリア蚊に攻められつゝ器材の轉把を離さぬ防空隊、高射砲隊等の言語に絶する苦勞のあることを更めて想ひ起さう。



何處、迷はれど、我々の足は、必ず、我が國の土に、踏まはるべし。

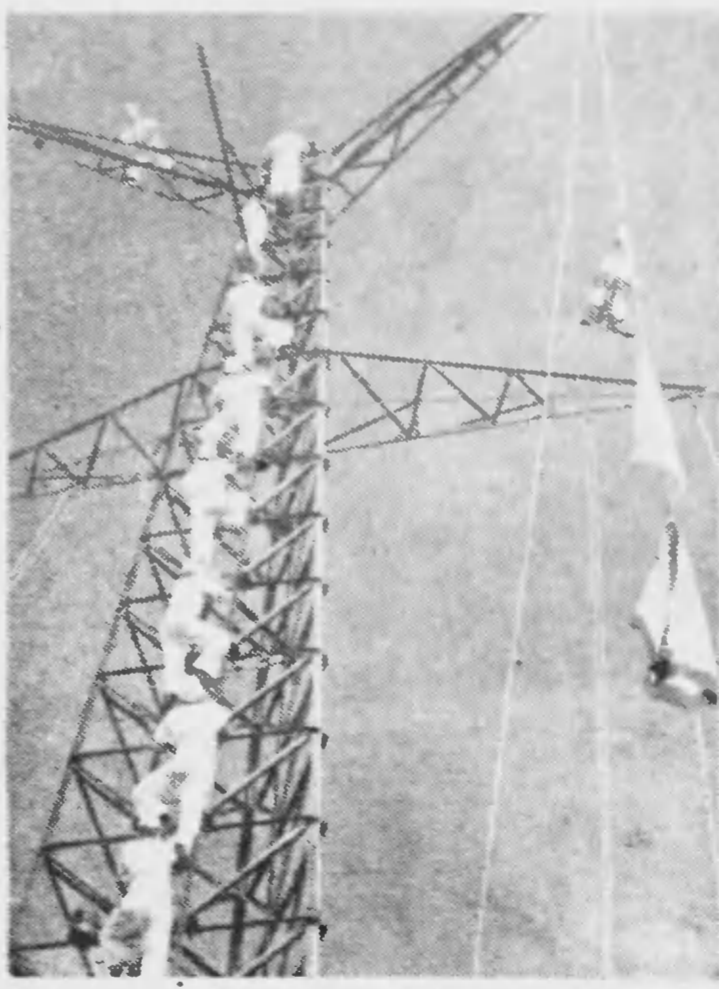
何處、迷はれど、我々の心は、必ず、我が國の土に、踏まはるべし。

何處、迷はれど、我々の魂は、必ず、我が國の土に、踏まはるべし。

# 戦果の陰に乙の苦勞







一、大砲の射撃は、第一の条件であるが、射撃するに当り、砲台の周囲を警戒し、敵艦に對してこの砲光を制するに、最も重要なる任務を司す。一刻も早く兵力を必



要の地帯にあり、或はまた全軍の事を進行することは、容易な業ではない。しかもこの難事を、見事やつてのけて、戦勝の第一因を得得るのは海軍の航海術である。海軍航海術は、その名の示すやうに、海軍の航海術の教育を施す学校であつて、小は潜水艦、驅逐艦から、大は陸奥、長門などの砲艦を動かす航海長は皆この学校の出身者である。また航海長の部下として働く信託員、操艦員もこゝでそれらの練習生として教育されてゐる。なほ、海軍軍人は大砲や魚雷をうつ前に、先づこゝに練習生とならねばならないが、そのためには砲の構造や艦體甲板の手入法、短艇索具の取扱などをよく知つておく必要がある。かうした教育もまたこの学校の任務であつて、各艦でこれらを担当する人に運用長があり、その部下となる練習生の教育もこゝで行はれてゐる。

# 海軍航海學校



一、艦隊の編成は、第一の條件であるが、射撃するに当り、砲台の周囲を警戒し、敵艦に對してこの砲光を制するに、最も重要なる任務を司す。一刻も早く兵力を必

## 月 六

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

- 一日 第十二回弾丸切手賣出し
- 七日まで 戦力増強安
- 八日 大詔奉讀日 國民皆勤 勸業を一掃せしめ
- 十日 航空局航空機操縦生募集本誌締切 詳細は全國郵便局へお問合せ下さい
- 十五日 百七十億貯蓄強要期間開始(二ヶ月間)



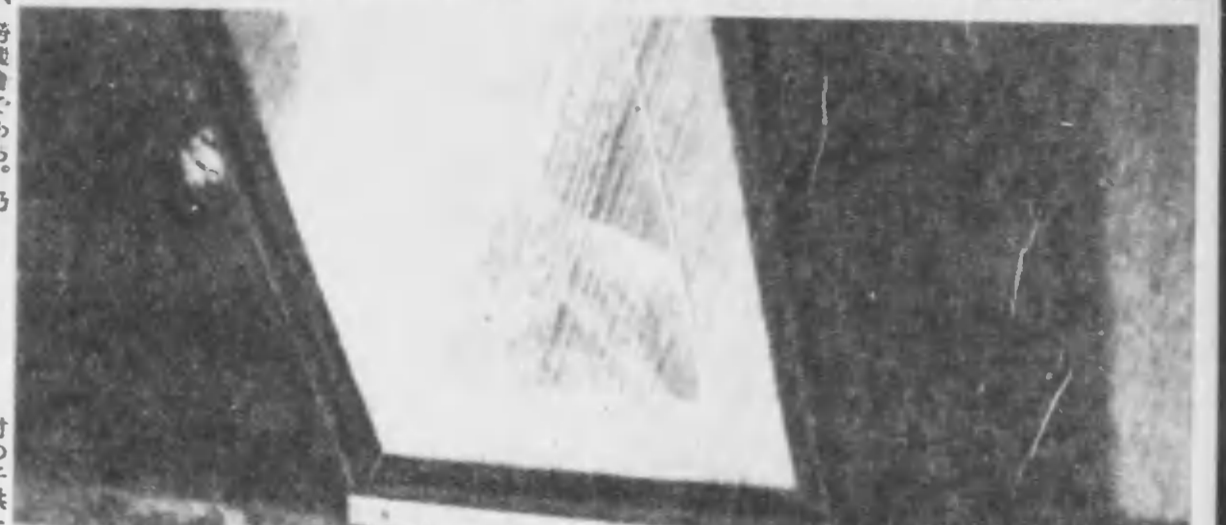
操縦員は、オモイカージ、艦長の命令の下、艦首の砲塔をあげてくつと砲撃の動作を繰り返す。操縦員は、魚雷の巧み射撃の練習をする。操縦員は、魚雷の巧み射撃の練習をする。



# 海軍の海に因る 日本随一の海軍村



⇨ これも乃木會の行事の一つ、労働會である。乃木大將は御自身労働をなされた。わたくし達もこの遺徳を身をもって實踐しなければならぬ。けふは全校児童が家の土かけを行つてゐる。



⇨ 村の子供たちは軍艦の話など非常に好きだ。三等兵曹である花輪新治郎さん(四八)は、大正五年軍艦に入團した村出身志願兵の先導者である。野良から歸つてひまのある晩は、子供たちを公會堂に集めて、楽しかつた遠洋航海の話などをする。



⇨ 役場の吏員は助役の少尉をはじめ、村長、兵事係、軍人後援係の軍曹、収入役の伍長、學事係の兵長といふ正合に全部が軍人である。この村が軍人精神に満ちてゐることは、この一事によつてもうなづける。



今乃木會の創設者 乃木治英石氏

われこそ水漬く屍、と海の強者を志す海軍志願兵の数は年を逐つて激増してゐるが、昭和十六、十七年の兩年度における海軍志願兵の合格者(人口率)が横須賀鎮守府管下第一位、日本で第四位の海軍村、山梨縣中巨摩郡玉幡村は今年こそ陸海

日本一の榮譽めざして全村が張り切つてゐる。甲府から狭西電車に橋られて約二十五分、盆地の中央に位する玉幡村は戸數三百七十五戸、人口二千五百の小さな純農村である。二毛作の土地なのであらう、見渡す限りの耕地が一面で整つてぶされてゐる。時道を通りながら、一體、この純農村が日本第四位の海軍村であるといふ因果關係は何處にあるのだらうといふ氣がした。



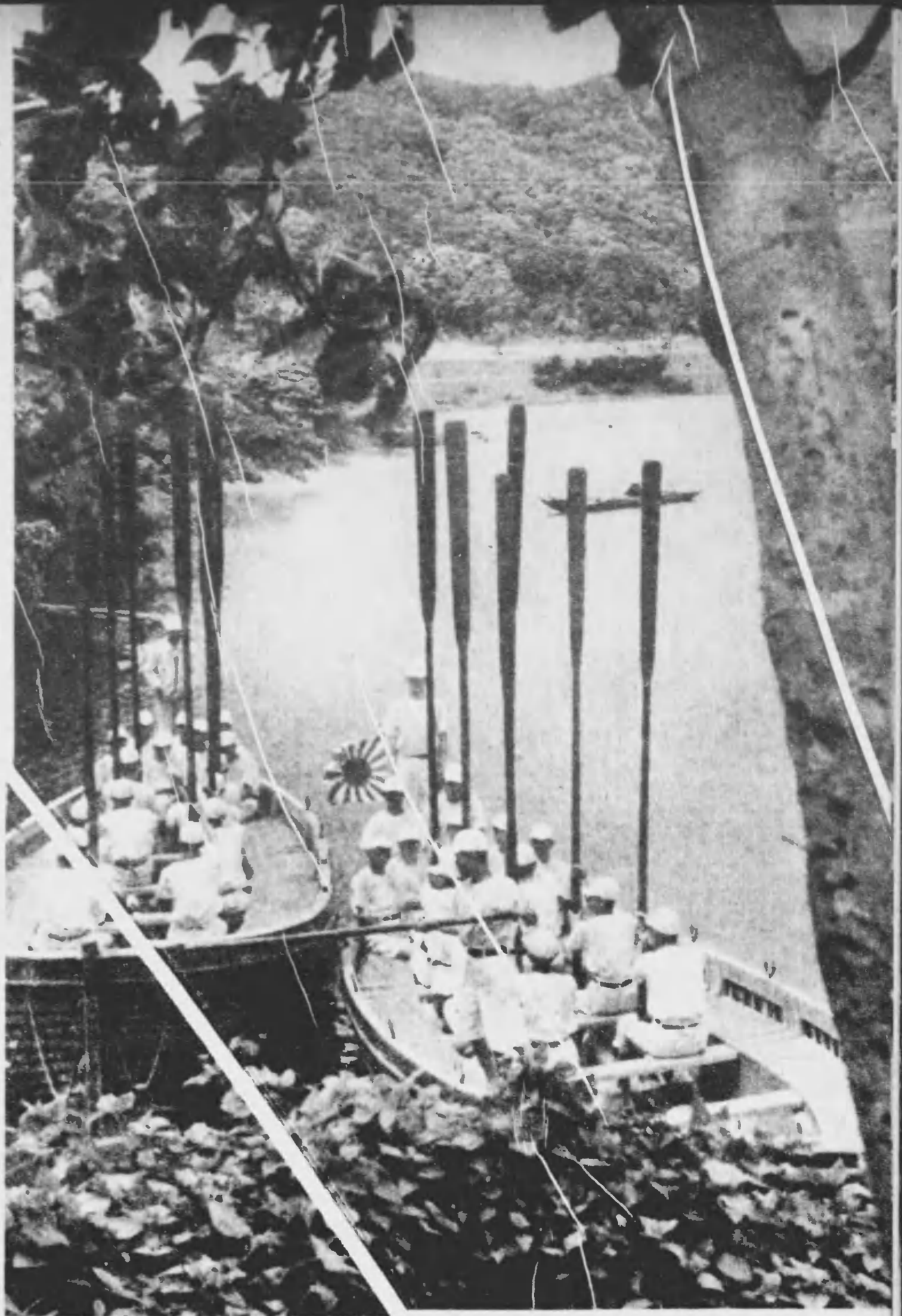
影射 林 忠彦

⇨ マスト上りは海へ行く離れが出来るなければいけない。青年學校生の村の者は武器に身を固め、火の目をマスト(鐘楼子)に登る訓練だ。



⇨ けふは乃木會の日である。學童は早朝村の八幡神社に詣で饗祭を唱和した。なほこの日、少年團から青年團に入團する式が饗祭に行はれた。





「いざ、出陣だ、腕が折れても清きめくぞ」  
帝國海軍のわばりは復讐の腕に引継ぐ覚悟だ

するだに畏ききはみである  
盛り上る朝鮮臺灣の赤誠  
は、支那事變をきつかけに  
一層強まつてきたので、昭  
和十三年には朝鮮、十七  
年には臺灣、それと陸  
軍特別志願兵制度が實施さ  
れたが、特に朝鮮に對して  
は、兵役法改正による徵集  
が明年度から行はれること  
になつてゐるが、海軍特  
別志願兵制度が實施され、  
豫備訓練は今年中に始めら  
れる快報が發表されたので、  
朝鮮臺灣同胞の感激は深い  
この豫備訓練とは、朝鮮  
臺灣では何んといつても風  
俗や習慣が異つてゐるため  
志願兵として入隊する前に  
或る期間必要な訓練を受け  
る譯で、従つて内地の志願  
兵にはこの制度はない。豫  
てこの日のあるのを待ちに  
待つて訓練をつけてゐた  
臺灣皇民奉公會の海洋訓練  
所では、この發表に、わつと  
歡聲をあげるとともに、そ  
の感激を訓練にと、今まで  
より一層の頑張りを誓つた



「兵願志別特軍海國帝は我」  
は體氣に肩を譽名の人為本  
だ人軍國帝を設立にです

## 水兵さんになれる 本島人の喜ぶ

朝鮮、臺灣に海軍特別志願兵制度實施

海に生きるためには、まづ水泳に上達することが肝腎だ。かつて海を捕れた本島人の事を言いで、僕は太平洋でも泳いで征かう

「敵艦ヲ轟沈セリ」潮風を振つた胸に受け艦橋に手旗信號を送る日はもうすぐだぞ

自分で喜びを直してみて改めて感じる母の恩  
「母さん、きつと、きつと立派な帝國軍人になります」



甲板洗ひも重要な日課の一つ。「エイ、エイ」  
元氣な聲を揃へ力をこめて

「こゝは何處か」もちろんハワイです、とさつと手を上げた  
訓練生は眞珠灣に散つた九軍神を思つて胸一杯だ



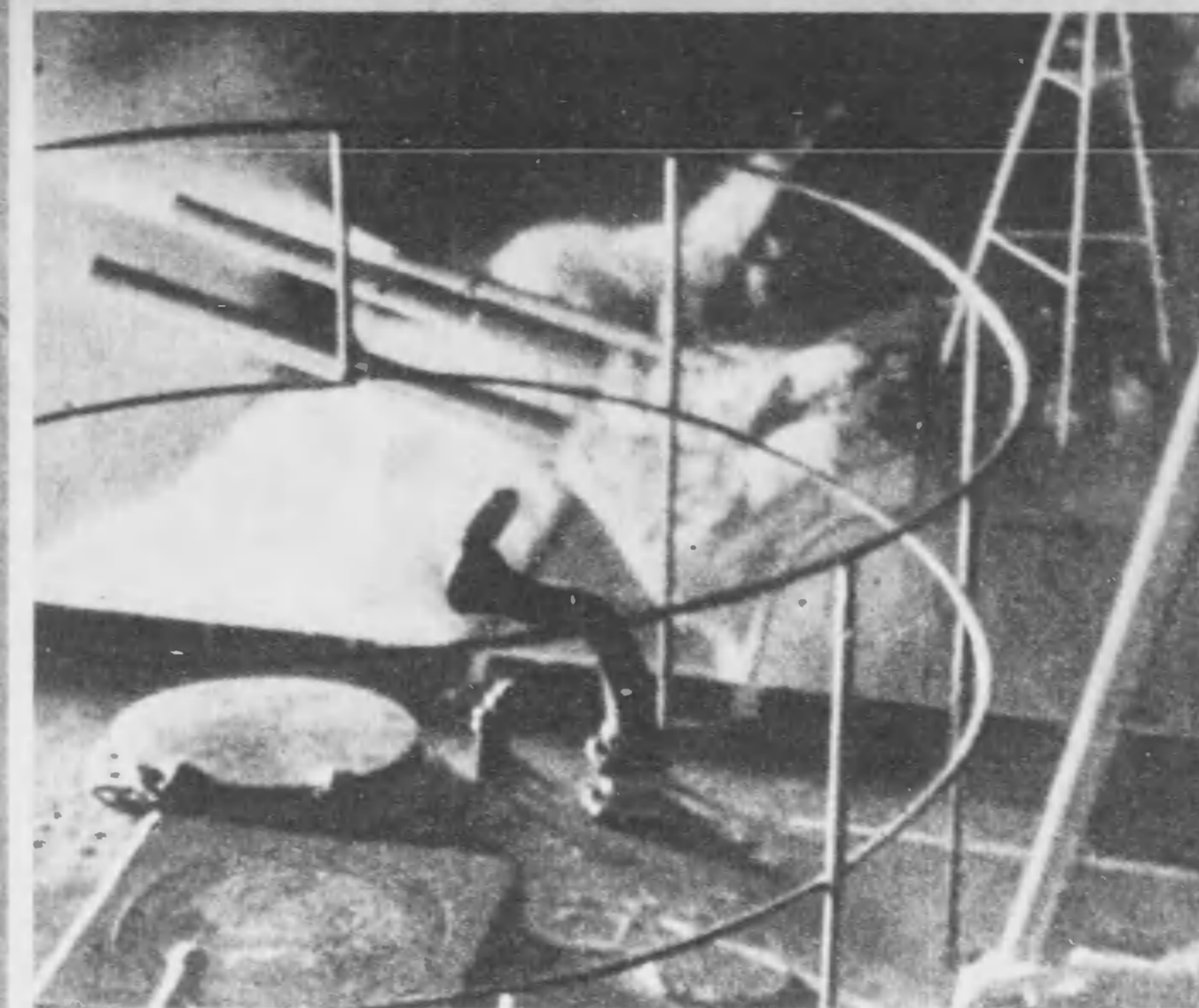




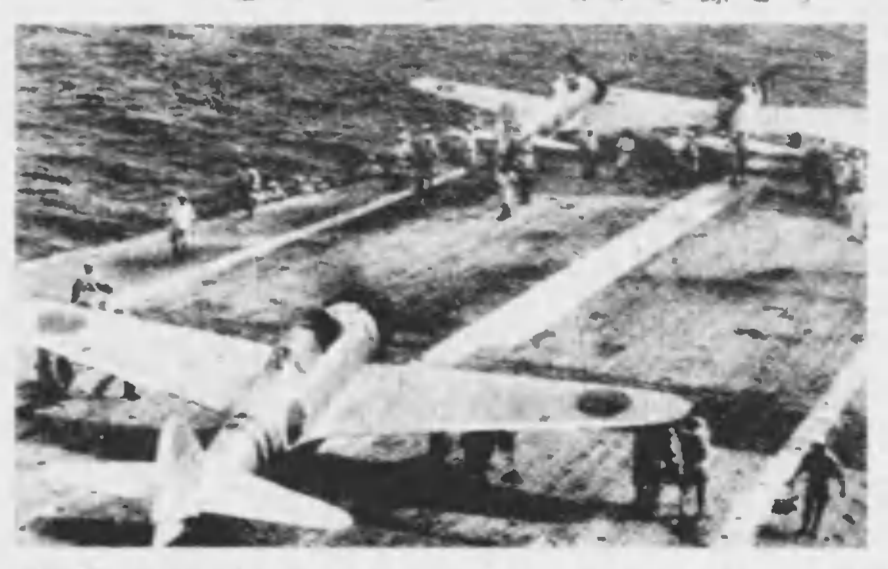
# 海軍戦記

海軍省監修  
日本映画製作社

昨年五月以降戦艦十月に至る間、帝國海軍は、北は凍結のアリューシャンから南は炎熱のソロモンにわたる廣大な戦線に、雄渾極でない作戦を展開し、赫赫の戦果を収めた。映畫『海軍戦記』は、この華々しい戦闘と勝利の記録であり、めざましい復興と建設の記録である。而して、その間あらゆる苦難を耐えて敵艦隊と建設の歩を進めるのが海軍將兵の姿がとらへられると共に、これに協力する原住民のありさま等が生々として描き出され、一貫した意圖のもとに構成

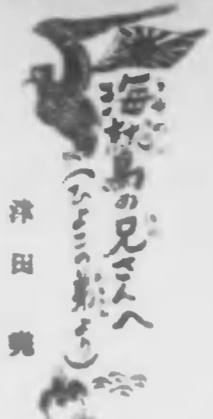


編輯された戦記映畫として、極めて感銘深いものがある。國民はこの映畫を通じて、帝國海軍の神聖的精神の發露を見、その認識を更に一段と深めると共に、新たなる感奮と信賴を捧げよう。文部省推薦映畫



★表紙  
東になつて出ていくと、敵艦隊に満ちた海が主力艦隊は、太平洋に備として存在する  
敵が主力艦隊十三隻を失つて海上兵力に致命的打撃をうけてゐるに拘はらず、わが主力艦隊の健在は、第三十八回海軍の光榮勝るものがある  
撮影 海軍省

## 海軍の足入



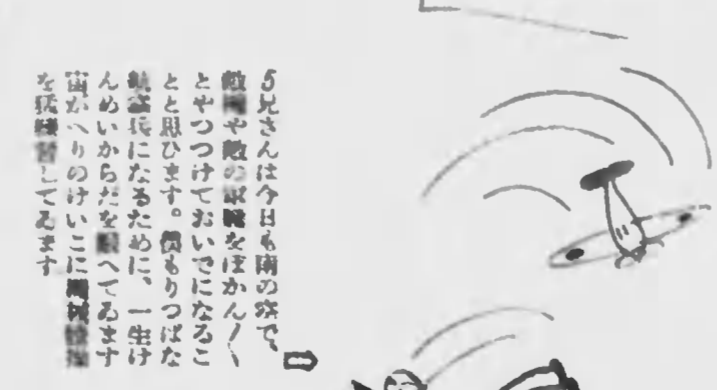
1 勇ましい足さへ、お元氣ですか。僕も元氣です。僕のライオン、とてもよく飛ぶやうになりました。昨日は二重艦の中をばばくして、もうすこしで沈んでしまふところでしたが、ボクが泳いでくればよかった。よし生還しました。



2 日本の軍艦がたつた一機、敵の十機も二十機も飛びついたので、艦隊に出て居ました。日本の軍艦は、たいさうなで、水又右衛門みたいだ。いつたら、友達が、僕の足さん、水又右衛門だ。いつたら、僕にともうれしかった。



3 船長は、僕が少尉艦隊長になって、僕の説明した飛行機に、ロンドンやニューヨークをばばくに行きます。ゆめに見た飛行機は、なつかうでした。

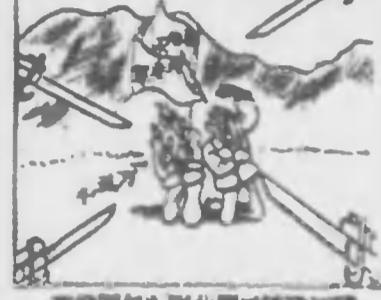


4 船長は今日も雨の夜で、敵艦や敵の軍艦をばばくして、とやうておいでになることと思ひます。僕もつばな艦隊長になるために、一生けんめいからたを懸けてます。歯がはりのけいこに、艦隊を保護してゐます。

## 大東亞戦争日誌



比島に砲撃 比島に砲撃



西線に砲撃 砲撃を砲撃



マルビ回へ 英軍の砲撃



西線に砲撃 砲撃を砲撃



砲撃の潜水艦 砲撃の潜水艦



チャーターもソントンで 砲撃の潜水艦



常備の山陣 砲撃の潜水艦



# 蓄貯戰況

## 270億



# 東海銀行

本店・名古屋市

寫眞週報 昭和十八年五月廿六日 第百七十二號

内閣印刷局印刷發行

寫眞週報  
(禁轉載)

昭和十八年五月廿六日 印刷發行

情報局

東京市豊町一丁目

内閣印刷局

東京市豊町一丁目

一部十錢

(送料一錢)

外費別送は依

る地域は送料

共一紙十九錢

▲特大紙の場合は

其の都度御拂込

金より差額を申

受けます

所	定
全国各地官報	一紙十錢
販賣所	(送料一錢)
書店・驛賣店	外費別送は依る地域は送料共一紙十九錢
新聞販賣店	▲特大紙の場合は其の都度御拂込金より差額を申受けます
寫眞材料店	

**本誌を回覧に**  
本誌は目下新規申込に感じかむてをりますから、函組や職場で回覧するなど、出来るだけ有効に御利用下さい。  
**前線慰問にも**  
またお読みになつたら本誌を前線慰問に送りませう。送料は内地と同様で、封紙はひと紙と明記すれば一紙一錢です。

刊行部選-A4複製定価は33人の資本